

弥生時代前期の溝

弥生時代前期（約 2500 年前）の溝から、完全な形の壺とともに、加工途中の木製鋏がみつかりました。

弥生時代前期の木製鋏としては、鳥取県の最古例となり、未製品の鋏の出土事例は、当時の加工方法を知る上で、きわめて貴重です。



弥生時代前期の溝（上層）



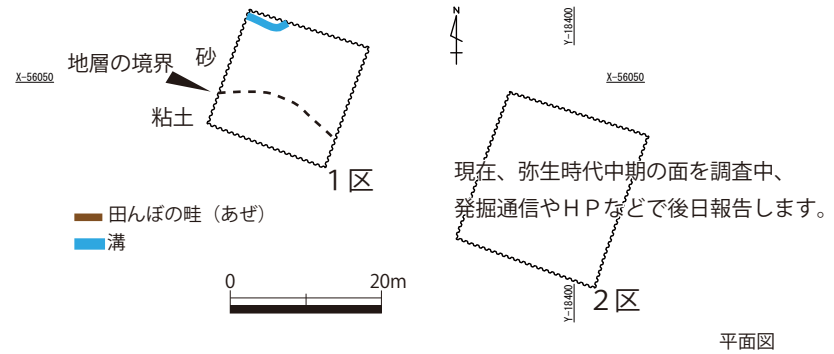
完全な形に復元できた壺



弥生時代前期の木製品出土状況



弥生時代前期の溝（中層）



縄文時代晩期以前の様子（1区、南から）



縄文時代晩期以前の松原田中

縄文時代晩期以前では、2m近く堆積する砂礫（されき）層と、低地に溜まった泥を確認しました。この砂礫層は、北側に高く堆積しており、弥生時代中期には、この高低差を利用して水田を営んでいることが1区の調査成果からわかっています。

現代の田んぼが広がる平坦な景観からは、想像もつきませんが、当時は、起伏だらけの地形だったようです。

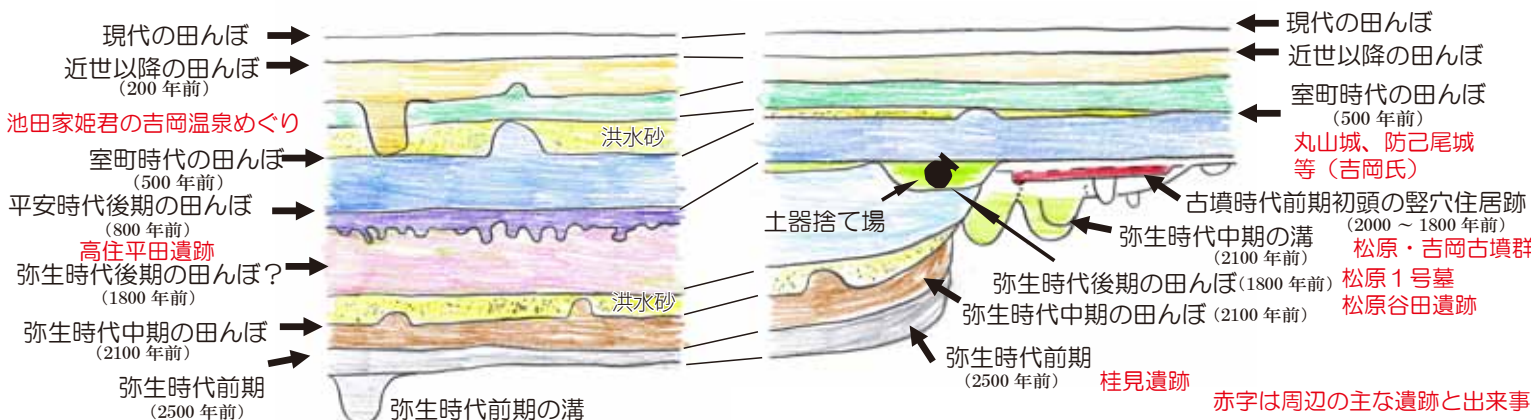
調査成果について

今回の調査では、弥生時代前期（約 2500 年前）から江戸時代まで、さまざまな時代の暮らしの一端を明らかにすることができました。松原田中遺跡の「田中」という名前のとおり、周辺には、弥生時代に通じる田園風景が今も脈々と続いています。

松原田中遺跡の地層

1区

2区



赤字は周辺の主な遺跡と出来事

まつばら たなか

松原田中遺跡の調査

財団法人鳥取県教育文化財団では、一般国道9号（鳥取西道路）の改築工事に先立って松原田中遺跡（鳥取市松原）の発掘調査を行っています。これまでの調査で、弥生時代中期から江戸時代に至る遺構・遺物を確認しました。

その内、弥生時代から古墳時代の遺構としては、田んぼとともに竪穴住居跡がみつかりました。周辺の丘陵地にある松原古墳群や松原1号墓と合わせて考えることで、当時の人々の居住域、生産域、墓域を総合して吉岡の地における歴史的環境を意義づけることができます。

現地説明会資料 平成22年12月4日（土）



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

松原古墳群（昨年度調査）

松原1号墓（弥生墳丘墓）



古墳時代初頭の竪穴住居跡（2区、西から）

（財）鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133 鳥取市源太12番地
電話：0857-51-7553 FAX：0857-51-7550
mail：matsuik@pref.tottori.jp
HPアドレス：http://business4.plala.or.jp/kyo-bun/index.htm

松原田中遺跡を掘る

今回の調査地は、周囲を丘陵に囲まれた平野部に位置し、標高は2.4mです。湖山川などの氾濫（はんらん）によって運ばれた砂や低い所に溜まった泥、田んぼなど人の営みによって動かされた土が堆積することによって形成されています。こうした場所にある松原田中遺跡は、墳丘墓や古墳が立地する丘陵の上と違って、「青谷上寺地遺跡」のように低地にある遺跡といえま



調査地遠景（北東から）



近世以降の田んぼ



現代の耕作土を掘ると、田んぼの区画や灌漑（かんがい）用の水路として利用された溝がみつかりました。この溝は、調査地の横にある湖山川と同じように、湖山池の方向に向かって流れていたと考えられます。地籍図や江戸時代の絵図の中に、よく似た地割り（区画）があり、近世以降の土地利用の様子がわかってきました。

近世の田んぼ（1区、南東から）



中世の田んぼ

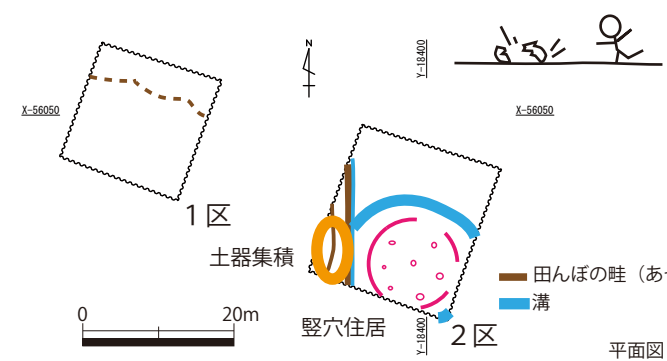
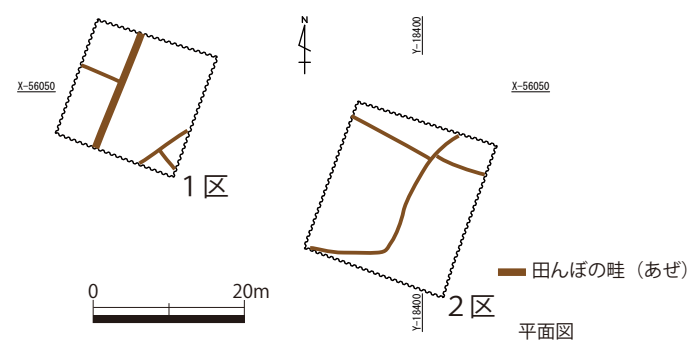
古代から中世（約900～500年前）の田んぼは、3面を確認しました。この頃には、田んぼの開発に伴って土地が全体に平らにされ、古墳時代以前の微高地は、跡形もなく消えてしまったようです。

室町～戦国時代の田んぼは、当時この地をおさめ、遺跡のすぐ南側にある丸山城を居城にしたともいわれている吉岡氏との関係が注目されます。



中世の水田（2区、東から）

中世の水田（1区、南西から）



弥生時代後期～古墳時代前期初頭の家と田んぼ

古墳時代前期初頭（約1700年前）の竪穴住居跡や弥生時代後期（約1800年前）の田んぼ、田んぼの廃絶後に、土器を捨てた場所がみつかりました。

また、竪穴住居のまわりを囲む幅1～2mの溝がみつかり、そこからも大量の土器が出土しています。



土器捨て場を掘る（北東から）

弥生時代後期の水田（南東から）



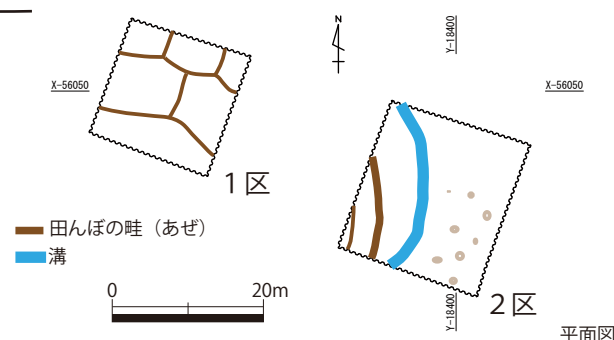
古墳時代初頭の竪穴住居跡とそれを取り囲む溝（2区、南西から）

弥生時代中期の玉作りと田んぼ

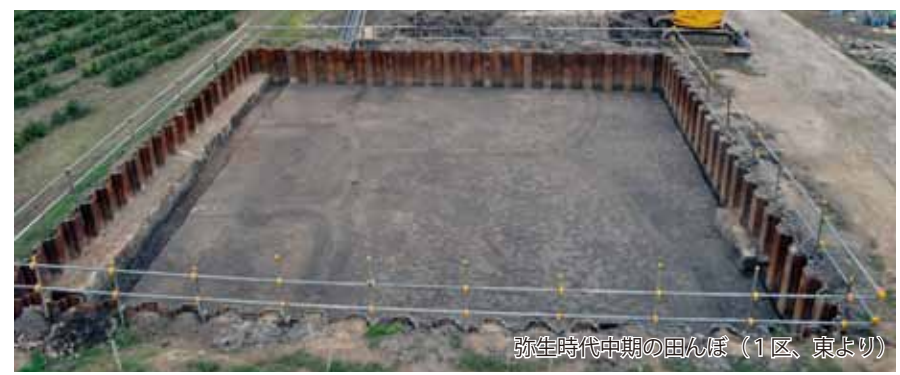


弥生時代中期（約2100年前）の玉作り関連の資料を出土した穴と田んぼがみつかりました。玉作りに関連する資料には、石材や玉を作った際の破片があります。

田んぼは、現在とくらべ、低いアゼでひとつひとつの区画が小さいものでした。また、地形は湖山池から吉岡温泉町の方に向かって低くなっており、中世の段階とまったく異なっていることがわかりました。



弥生時代中期の溝（2区、南東より）



弥生時代中期の田んぼ（1区、東より）